

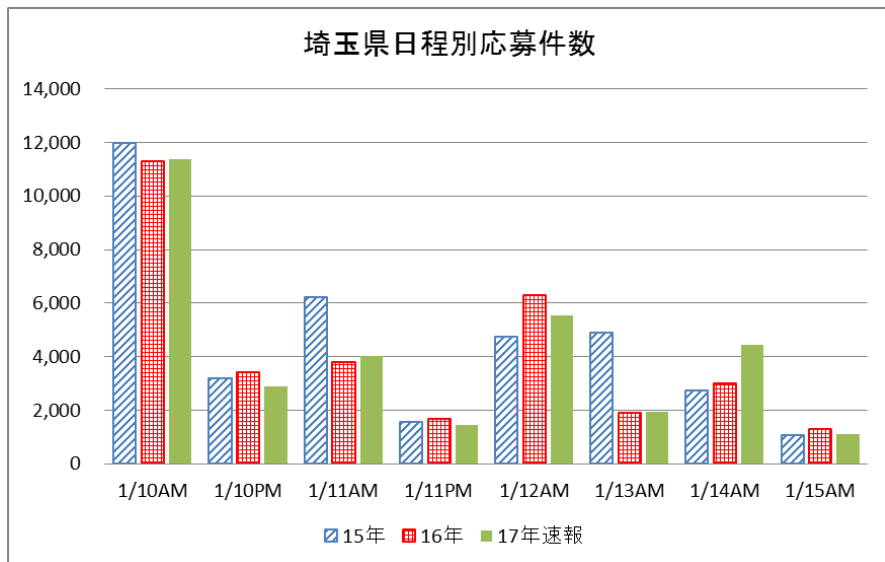
# 埼玉県私立中入試概況

## 1. 概況 実受験者数は昨年が続く増加、栄東が今年も圧倒

埼玉県内の公立小6児童数は約62,700名で昨年より約1,000名減少しています。県内の公立中高一貫校を含む中学入試の応募総数は、2月15日現在では約43,660件で、昨年の最終は約44,600件でしたから、約1,000件の減少です。入試結果未公表の学校や3月になってから実施される入試などもあるため、最終的な応募総数はもう少し増える見込みですが、昨年の水準には届かず、減少するとみられます。しかし、実際の受験者数は2月15日現在の速報値でも、延べ200名程度ですが、昨年の最終を上回っていて、今後まだ上乘せされる見込みです。昨年も同じ傾向で、受験生が、あらかじめ多くの入試回次に出願しておくのではなく、必要に応じて出願する動きに変わってきています。

上のグラフは、県内中学入試の日程別の応募者数の合計を一昨年、昨年と比較したものです。今年の数値は速報値です。私立中学だけでなく公立一貫校も含んでいます。本来は国立も含むところですが、埼玉大附属は2月1日が入試でグラフには含まれていません。応募総数では今年も1月10日午前が11,000件を超えていて、次点の11日午前の3倍近い応募者数です。昨年との比較では、1月14日午前の応募者がかなり増えていて、11日午前は微増、10日午前と13日午前は昨年並み、10日午後は減少、11日午後と15日午前は微減、といったところです。

14日の増加は、市立浦和と伊奈学園の公立一貫校2校が昨年の10日から14日に移動したからで、それでも10日が昨年並みなのは私立の応募者が増えたからです。さらに、10日午前は栄東のA日程が約900名増えていて、公立一貫校が昨年の10日から14日に移って減った分とほぼ同じです。ということは、10日の私



立の人気は栄東の人気上昇の結果です。もちろん、私立は同校だけではありません。応募者数の増減はさまざまですから、栄東だけが人気上昇というわけではありませんが、栄東に頼った県内私立人気です。10日午前以外は、公立一貫校が移ってきた14日を除くと、応募者数は昨年並みかマイナスで、この点からも、10日午前の栄東人気の大きさがわかります。

なお、昨年は11日午前の減少が大きくなっていますが、これは市立浦和が11日午前から10日午前に移ったため(伊奈学園は10日のままだった)、10日午前が一昨年よりも減っているのは、市立浦和が移ってきて合計ではマイナスだった、ということです。その分私立の応募者が減っていたわけです。昨年は栄東も10日午前の応募者が減っていて、隔年現象的な変化になっています。

次に、難易度による志望校選択の傾向をみます。次のページのグラフは、各校の応募者数を難易度別に上からA~Eの5段階にグルーピングして合計し、昨年と比べたものです。グルーピングは各年の入試直前の予想難易度をもとにしていて、毎年受験生がどの難易度の学校をどれだけ希望しているかを表しています。公立一貫校は受験生の学力分布が幅広いため外し

ています。共学・別学校の応募者はそれぞれ男女別で集計し、男子校・女子校と合計していますが、男女別の内訳が未公表の学校は応募者数の半分ずつをそれぞれ男子・女子で合計しました。昨年は昨年用の予想難易度、今年は今年用の難易度を用いていますので、それぞれのグループに含まれる学校は、昨年最終と今年とでは異なる場合があります。

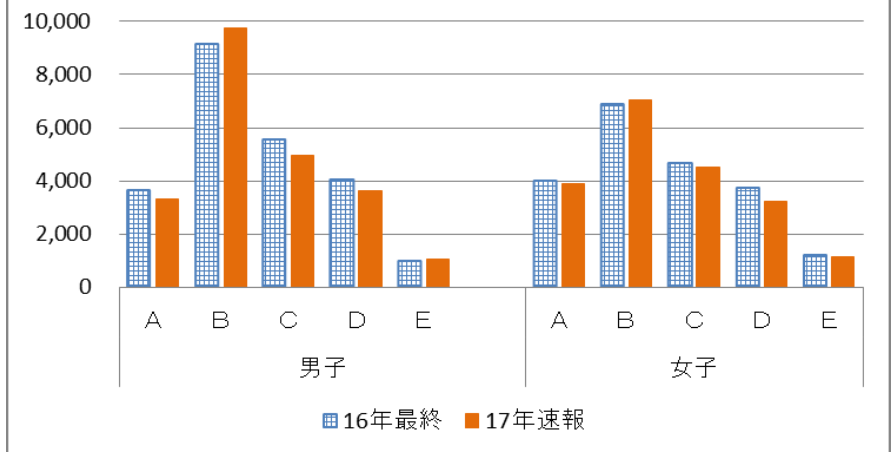
男女ともBグループが最多ですが、男子では応募総数の約4割を超えるのに対して、女子では三分の一強で、男子のBグループ集中が目立ちます。男子はBグループだけが昨年より増えていて、その中心は栄東です。A・C・Dグループは少しずつ応募者が減っていて、Eグループは昨年並みです。女子もBグループは増えていますが微増で、その次に多いのはCグループですが、やや応募者が減っています。昨年はAグループとDグループの差が僅かでしたが、今年はDグループも減っていて、差が広がっています。男子同様、Eグループは僅かです。東京23区ではDグループの減少が目立っていますが、埼玉県も似た傾向にあり、男女とも「せめてCグループの学校に」という受験生が増えているようですが、同時に男子ではCグループも少し敬遠傾向が出ているようで、上位校志向の強さがわかります。

以下、各地域別に入試状況を見ていきます。なお、市立浦和高校附属と伊奈学園については、公立一貫校の概況をご覧ください。

## 2. さいたま市・その周辺地域

今年も応募者数日本一の栄東から。同校の各回の応募者数合計は、昨年より520件増加して1万810件でした。今年も1万件の大台が続いていて、断然日本一

難易度別応募者数 埼玉県



### ◎ 難易度別グルーピング

本資料集では出願動向の分析のため、各校の代表的な入試難易度で埼玉県私国立中を次のようにグルーピングしました。学校ごとの教育内容の優劣を表すものではありません。

A…浦和明の星・開智(先端)・栄東(東大)

B…開智(一般)・開智未来(T未来)・栄東(一般)・淑徳与野・城北埼玉(特待)・西武文理(特選)・星野学園(理数)・立教新座

C…大宮開成(特待)・英数特科)・開智未来(未来)・春日部共栄・埼玉栄(難関・医科)・埼玉大附属・昌平(T)・城北埼玉(一般)・西武文理(一般)・獨協埼玉・星野学園(進学)

D…浦和実業・大宮開成(特進)・開智未来(開智)・埼玉栄(進学)

・埼玉平成(S選抜)・狭山ヶ丘高付属・城西川越(特選)・昌平(一般)・西武台新座・聖望学園(特待)・東京農大第三・本庄東高附属

E…浦和ルーテル・大妻嵐山(進学・セレクト)・国際学院・埼玉平成(進学)・自由の森学園・秀明・城西川越(一般)・聖望学園(一般)・東京成徳大深谷・武南・本庄第一

です。同校は1月10日のA日程だけで5,891名の応募者数、実受験者数も5,832名で、こちらも1回の入試としては日本一の規模です。同校は2014年以降、1万件台を続けています。以前は、都内や神奈川からの受験生を集めるべく、様々な施策を行ってきましたが、現在は「入試のやり方」で集めるのではなく、教育の中身の強化に取り組んでいて、評価も上がっています。A日程で東大クラス合格を出すことが浸透してきたためか、A日程の増加が一番大きく、1月18日の東大選抜Ⅱも応募者が増えています。12日の東大選抜Ⅰは減っていて、今年もA日程への受験生のシフトが目立ちました。合格最低点は東大選抜Ⅰが少し下がり、16

日のBは上がっていますが、基準点をクリアすれば合格する入試ですから、出題が得点しやすかったかどうかの影響でしょう。難度面で特に変化は見られません。他の回次は昨年並みでした。

栄東のライバル校、開智は1月11日の先端A入試の応募者が昨年並み、23日の先端B入試は少し減りましたが、10日・12日の一貫1・2回は男女とも増えていて、上位コースの先端入試よりも一貫クラスの人気が上がっているようです。先端入試はA・Bとも男子がやや減少、女子はどちらも昨年並みか少し増えていまして、全体的には応募者が増加傾向の中で、男子のトップレベル層の受験生の一部が少し栄東に流れたようです。昨年は一貫1回の応募者がやや減ったものの、他の回は増加、特に先端Aは大幅に増えていて上位コース主体の人気上昇でしたが、今年は全体的な人気上昇です。合格最低点は特に一貫2回が大きく上がりました。少し点数がとり易かった面はあると思われますが、受験生の平均的な学力水準が上がっている面が大きいようです。先端A・B、一貫1回も昨年並みの水準でした。

大宮開成も昨年に続いて各回合計の応募者数が増加して人気が上がっています。昨年は、特待入試と上位コースの英数特科入試が応募者増加の中心でしたが、今年は特待入試が増加、英数特科入試はやや減っていて、入り易いコースの特進入試が増えていきます。同校受験生の希望が上下に分かれてきました。合格最低点は特待・英数特科・特別進学各回とも今年も昨年同様で、安定しています。

栄東の系列校、埼玉栄は昨年医学クラスを新設しましたが、今年は医学クラス入試と難関大クラス入試を増設、1月10・11日とも午前午後で受験できるようにしたほか、2科または算理だった科目を午前は4科、午後は2科に統一、2月4日午後入試を3日に繰り上げ、進学クラス入試は午前設定のみとするなどの大きな入試の設定変更がありました。各回合計の応募者数は若干増えています。1月10日午前は医学・難関大入試新設で応募者が増えましたが、同時実施の進学クラスはやや減、10日午後は午前に流れた受験生もいたようで、医学クラスは昨年並みの応募者数でしたが、難関大クラスは少し減っています。11日午前は医学クラスが昨年並み、難関大クラスは減りましたが、進学クラスが午後から移動してきて合計では増加、午後は

進学クラスがなくなって医学・難関大入試を新設したため、人数面では減少しました。13・14日の進学クラス入試は応募者が増加、2月の医学・難関大入試は減少していて、トータルでは医学クラスが増加、難関大クラスはやや増加、進学クラスは少し減って、受験生がややレベルアップした入試になっています。変更の規模が大きいことと、進学クラスの合格最低点が未公表のため、比較が難しいのですが、各クラス各回とも難度はあまり変わっていないようです。

浦和実業は昨年適性検査型入試を新設しました。埼玉県内の公立一貫校との併願ではなく、都内北部の、東京の公立一貫校受験生の併願生向けの入試です。昨年はこの入試の新設で、各回合計の応募者数は一昨年来を上回ったものの、従来型の入試は各回とも少しずつ減っていました。今年はこの傾向が一層強まり、適性検査型は増えたものの、それ以外の入試は各回とも減っていて、各回合計では昨年来を下回っています。1月10日午前と、2月4日の入試は昨年並みの合格最低点ですが、他の回は少しずつ入り易くなったようです。2013年に開校した武南は、昨年に続いて今年も各回とも応募者が少し減っています。同校は京浜東北線沿線では一番都内に近いのですが、都内北部の中堅校を考える受験生は、1月入試に浦和実業を選ぶケースが多く、都内生への浸透が今一つで、さらに、まだ中高一貫1期生が高校を卒業しておらず、なかなか認知度が上がっていないようです。合格最低点は1月10日午前の1回午前が昨年並みで、それ以外の入試は合格者数があまり多くないこともあって、上下変動のバラつきが見られますが、概ね昨年並みの難度だったようです。

独特な教育方針の浦和ルーテルは、昨年までは1月10日には入試を設定しないなど、県内他校とは一線を画していましたが、今年から入試を増設、英語入試や自己アピール入試、適性検査型入試も新設しています。こうした積極策のおかげで応募者は大きく増えて、実受験者数も増えましたが、受験生・保護者への浸透はあまり大きくはなく、今年も小規模な入試でした。難度面もあまり変わっていないようです。開校4年目の国際学院は今年も小規模な入試でした。国立の埼玉大附属は本稿執筆時点で入試結果未公表でした。

女子校では、昨年は浦和明の星、淑徳与野とも応募者が増えましたが、今年も淑徳与野の2月4日の2回がやや減ったほか、同校の1回、浦和明の星の1・2

回とも昨年並みの応募者数で、安定した人気です。合格最低点は淑徳与野の2回が少し下がっていますが、高倍率で補欠も出ていますから、応募状況を反映したというよりも、今年の出題がやや得点しにくかったと考える方が正しいでしょう。難度はあまり動いていません。同校1回と浦和明の星の1・2回は昨年並みで、難度面では変化が見られませんでした。

### 3. 東武東上線南部・西武線方面

男子校から見えていきます。城西川越は、昨年は各回合計の応募者が増えていましたが、今年はほぼ昨年並みです。1月14日の3回や2月6日の4回が増加の中心で、1月10日午前は少し減っています。10日午後、11日午前は昨年並み、11日午後はやや減といったところです。10・11日は入試の集中日で、県内各校の多くがここに入試を設定していますから、今年は志望順位が高い受験生が少し他校に流れているのかもしれませんが、ただ、応募者が減った10日午前と11日午後は合格最低点が上昇しており、少し難化しています。他の回は昨年とあまり変わらない合格最低点で、難度は昨年並みだったようです。城北埼玉は、昨年は各回合計でほぼ前年並みの応募者数でしたが、今年は各回とも減っています。共学校に受験生が流れたようです。こうした状況を反映して、1月10日午後の特待入試と12日のI回は合格最低点が少し下がっていて、入り易くなったようです。1月15・18日の2・3回は昨年並みで、難度に変化は見られません。

立教新座は、昨年は1月25日の1回、2月3日の2回とも応募者が増えていましたが、今年は両方とも少し減っています。一昨年も減っていましたから隔年現象です。本稿執筆時点で合格最低点はまだ公表されていませんが、今年も補欠を出していることから、難度面は昨年とあまり変わっていないようです。

男女校では、昨年応募者が減少していた西武文理は、1月10日の1回の応募者が昨年並み、22日の4回は少し増えましたが、他の回は今年も少し減っています。ただ、昨年ほどの減少幅ではなく、人気の退潮傾向に歯止めがかかってきました。特選・一貫の2コース制ですが、どちらも難度面では各回とも昨年とあまり変わっていないようです。

星野学園は理数選抜と進学がそれぞれ2回、2コース合同の総合選抜入試1回の5回入試です。5回とも

男女とも昨年より応募者が増えています。もともと男子よりも女子の応募者が多い学校で、増えた人数も男子よりも女子の方が多くなっています。昨年は理数選抜と進学のそれぞれ3回を統合したため、合計では応募者がやや減っていましたが、2回の理数選抜入試と1月11日午後の進学入試は増えていて、人気が上がっていましたが、今年も勢いが続いています。10日午前の進学1回と、11日午前の理数選抜2回はやや合格最低点が下がっていますが、他の回は昨年並みです。

狭山ヶ丘高付属は2013年開校です。一昨年は遅い日程を中心にやや応募者が減りましたが、昨年は応募者が増えている回次が多く、増加しました。今年も各回ともやや減っています。各回とも男子が減少の中心で、他校に流れたのかもしれませんが、女子は昨年並みで安定した応募者数でした。実際の受験者数も少し減っていますが、難度面では昨年とあまり変わっていないようです。

西武台新座は特選・特進の2コース制で、それぞれ2回の入試と、2コース合わせた特選特進チャレンジ入試、特待入試の計6回の入試があります。上位コース入試の2回の特選入試と特選特進チャレンジ入試は昨年並みの応募者数ですが、特待入試と2回の特進入試は応募者が少し減っています。昨年に続いて合計も少し減りました。合格最低点は、特選入試が2回ともやや上がり、少し難化していますが、他の入試は概ね昨年並みで、難度は変わっていません。

聖望学園は昨年、各回合計の応募者数が少し減っていましたが、今年は回次単位では細かい増減があるものの、合計では昨年とほぼ同じ応募者数でした。しかし、実際の受験者数は増えていて、多くの入試にあらかじめ出願しておく動きが沈静化している中では、人気が上がっていると言えるでしょう。同校は市立浦和や伊奈学園といった、県内の公立中高一貫校ではなく、多摩地区の東京都立の中高一貫校の併願受験生向けに適性検査型入試を実施していますが、こちらは少し合格最低点が下がっています。今年も得点しにくい出題が多かったようで、難度そのものは大きくは変わっていないでしょう。他の入試は、合格者が少ない回次・科目選択だとバラつきが見られるものの、総じて昨年とあまり変わっておらず、こちらも難度に特に変化はなかったようです。全寮制の秀明は、昨年難関国立・医学部・総合進学の3コース制からスーパーイングリ

ッシュ・文理の2コース制に変更しましたが、全寮制という性格上、今年も小規模の入試でした。独特な教育方針の自由の森学園は、今年も例年同様小規模な入試でした。

#### 4. 東武スカイツリーライン・伊勢崎線・日光線方面

獨協埼玉は昨年に続いて各回合計の応募者がやや減っています。1月11日の1回は小幅ですが増加しており、昨年同様、減少の中心は2・3回です。1回の合格最低点は合格最低点は1回が少し下がってやや入り易くなったようですが、12日の2回は概ね昨年並み、17日の3回は上がっていますから、2・3回も応募者が少し減っても難度は維持しています。春日部共栄は1月10日午後と11日午前とで、4科入試と2科4科選択入試の設定を入れ替えたほか、15日の入試を2科にしました。昨年は、11日午前の応募者がやや増えたものの、他の回次は減っていましたが、今年は回次ごとでは細かい増減があるものの、各回合計では昨年並み、厳密には若干減っています。しかし、実際の受験者数は小幅ですが増えていて、事前に多くの入試に出願しておく動きが沈静化している中では、人気を維持していると言えそうです。科目変更もあったので合格最低点の単純比較は難しい面がありますが、1月10日午前は昨年並み、他の入試は少し下がっています。10日午前は難度に変化はなさそうですが、他の回次はやや入り易くなっているようです。

この地域北部の昌平は、一昨年は上位コースとしてTクラス入試を新設、昨年は1月11日午後に適性検査型入試を新設、今年は英語選択入試を新設と、毎年入試を工夫しています。応募者数も対応して増加が続いていて、人気が上がっています。合格最低点はバラつきがあって、1月11日午後の適性検査型入試はかなり上がっていますが、応募者の増加による難化はあるにせよ、得点しやすい出題だった面もあるでしょう。大幅に難化したわけではなさそうです。逆に11日午前のTクラス入試は大きく下がっていますが、こちらも得点しにくい出題が多かったようで、難度面ではやや難化、といったところでしょう。10日午前の1回4科も上がっていますが、こちらも2科が昨年並みですから、得点しやすい出題が多かったと考えられます。他の回次は総じて昨年並みで、難度面では昨年並みか、やや

難化した程度でしょう。

開智未来は一部の入試で英語選択を実施しました。1月12日の未来B入試は昨年と同じ応募者数でしたが、他の回は少しずつ減っています。昨年は多くの回次で応募者が少しずつ増えていましたので、隔年的な変化です。2011年開校の歴史の浅い学校ですが、だんだん定着してきて隔年現象が起きるようになってきました。合格最低点は各回各コースとも昨年とあまり変わっておらず、概ね難度に変化はありませんが、最終回に当たる1月19日の特選2回はやや上がっていて、埼玉県では後ろの日程の回次になると入り易くなる学校が多い中で、甘くしない姿勢を示しています。

#### 5. 東上線北部・高崎線方面

大妻嵐山は1月10日午前の進学入試を「ORまなび力入試」に改称、午後に「OR未来力入試」としてリスニングや総合記述型の入試を新設、10日午後だった1回を11日に、11日だった奨学生入試を12日に移動して、11日午後のSアドバンス入試と12・16日の一般2・3回を廃止するなどの変更を行いました。「OR未来力入試」は21世紀型学力に対応するものです。入試回数を減らしていますから、当然各回合計の応募者数は減っていて、実際の受験者数も減っていますが、合格最低点は受験者数がかなり少ない回次は別として、「ORまなび力入試」がやや下がったものの、他の回次は昨年とあまり変わっておらず、難度に変化はなさそうです。

男女校では東京農大第三が、1月10日午前の総合理科入試と午後の2科4科選択入試の時間帯を入れ替え、どちらも特待入試に位置付けました。応募者数は午後に移った総合理科入試と、14日の4回の男子が昨年並みですが、あとは少しずつ減っていて、各回合計でも少し減っています。ユニークな総合理科入試は今年も不合格者が目立ち、準備不足ではなかなか合格が難しい入試でしたが、他の回次は不合格者が少なく、難度面はあまり変化がありません。埼玉平成はS選抜、A進学の2コース制でしたが、S選抜の募集を停止しました。もともと他校併願受験生の「お試し受験」の場としての性格が強く、形式的なものよりは実質的な入試を行っていくというものです。各回合計の応募者数は当然のことながら減っています。難度の面では特に変化は見られませんでした。

高崎線方面では、昨年本庄第一が開校しましたが、中学受験があまり広がっていない地域で、小6の児童・保護者への浸透が不十分だったこともあり、小規模な入試でした。2年目の今年は英語選択の入試も新設しましたが、各回とも応募者はかなり増えています。規模ではまだ小規模と言わざるを得ませんが、地元へ浸透し始めたのでしょう。実際の受験者数は2倍近い増加です。難度面では不合格者が少なく、昨年とあまり変わっていないようです。本庄東高附属は、一昨年は各回とも少し応募者が減っていましたが、昨年、今

年と各回とも少しずつ増えています。中学受験があまり広がっていない地域ですが、人気が上がっています。合格最低点の変動はややバラつきが見られますが、県南部のように毎日各校を受験していくような地域事情ではないことから、各回とも難度に大きな動きはなさそうです。開校5年目の東京成徳大深谷は、今年も昨年同様、各回の応募者数が少しずつ減って、小規模な入試でした。やはり中学受験があまり広がっていない地域で、浸透が不十分のようです。

※本概況は、2017年2月15日までに回答のあった学校アンケートに基づき作成しています。2月15日以降変更等ある場合がありますので、ご了承ください。